

Library

『町屋・古民家再生の経済学  
なぜこの土地に多くの人々が  
訪ねて来るのか』

編著：山崎 茂雄、

共著：野村安則、安嶋是清、浅沼美忠

水曜社 本体1,800円+税  
(A5判、144頁、2016.3)

古民家や歴史的街並みで体感する安堵感は、「ふるさと」のような空間を希求する人間の本能的行動の現れといってもいいだろう。しかしそれら古民家が多くを占める、空き家問題は年々深刻化しており、地域再生は今の日本の課題となっている。

本誌は6地域における、古民家を文化や芸術の力あるいは情報技術の力を借りて創造的に再生し、交流人口の拡大や定住促進に向けた取り組みを紹介している。

本誌の特徴は、1990年代のピーター・ホール、チャールズ・ランドリー、リチャード・フロリダ、またアン・マークセンなどに代表される、「創造的再生」を基礎とする都市論、地域論などから、これら未活用資源の活用について文化経済学の視点で文化観光論を

紐解いていく点にある。さらにワーク・イン・レジデンスは一般化しうるのか、という社会実験結果も興味深い。

古民家の再生は、文化、芸術、情報技術、農、産業などと融合させて地域固有の魅力を創造するときに、地域再生に大きな力を持つことを教えてくれる一冊である。

(評者：久保 由加里)